

市立池田病院 地域医療連携ニュース

今月は、ホームページリニューアルに伴う診察・検査予約申込の案内ページについて変更点をご説明します。
また、4月より院内標榜している「小児外科」についてご紹介いたします。対象となる患者様がおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

ホームページをリニューアルしました

6月末にホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、デザイン及びメニューなどコンテンツの見直しを行ない、知りたい情報をスムーズにお届け出来るように刷新いたしました。また、スマートフォンやタブレットなどモバイル端末からも見やすくなりました。

デザインが変更になりましたので、改めて診察・検査予約申込書の印刷方法についてご説明します。

- ① ホームページ上段に表示している【地域医療連携室】メニューにカーソルを合わせる。
 - ② 【診察・検査予約はこちらへ】メニューが表示されるのでカーソルを合わせてクリックする。
 - ③ 画面をスクロールし、表示している【診察予約申込書】、【MR予約申込書】PDFファイルを印刷する。
- ※予約方法などに変更はございません。（予約方法を確認したい場合は、上記③のページ上段をご覧ください。）



診察予約申込書について

*診療科の科名にチェックをお付け下さい。
患者様の基本情報をご記入の上、診察予約申込書と診療情報提供書をFAXにて送信して下さい。
受診当日のカルテ作成が速やかにできるように、前もってコンピュータに入力しておきます。

診療科	検査項目
1. 内科学(内科)	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
2. 消化器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
3. 呼吸器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
4. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
5. 皮膚科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
6. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
7. 神経科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
8. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
9. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
10. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
11. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
12. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
13. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
14. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
15. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
16. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
17. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
18. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
19. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
20. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
21. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)
22. 泌尿器科	・HbA1c(糖化ヘモグロビン)

③

市立池田病院 診察予約申込書 (106 KB) PDF

市立池田病院 MR予約申込書 (94 KB) PDF

【おわび】

かかりつけ医紹介カードの印刷において、表示が重なり、うまく印刷できない不具合が生じています。現在対応中ですので、今しばらくお待ちください。ご不便をお掛けし、申し訳ありません。

小児外科の疾患

本年4月より小児外科外来を開設しました。第2、4水曜日の午後に専門医・指導医による診察を行っております。

小児外科は非常に多くの疾患（体表、呼吸器、消化器、泌尿器、腫瘍など）を対象としています。対象患者は、新生児から中学生までを基本としていますが、小児外科疾患をお持ちの成人の方や重症心身障がいの方（気管切開、喉頭気管分離、胃瘻造設、噴門形成）も診察が可能です。手術・全身麻酔を伴う検査・緊急対応は、大阪大学医学部附属病院で行います。対象かどうかなどお困りの際には、当院まで御紹介のほどよろしくお願い申し上げます。

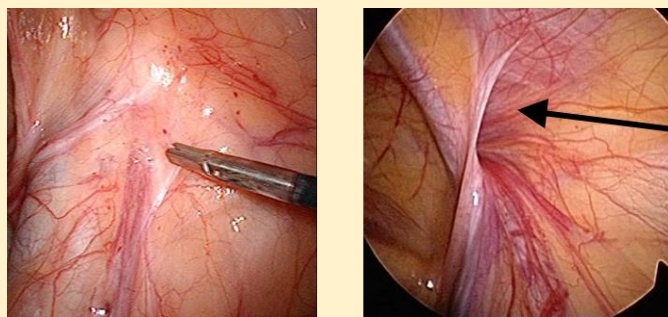
外鼠径ヘルニアの治療について

小児外科で最も頻度の高い疾患が外鼠径ヘルニアです。

大阪大学小児外科では、外鼠径ヘルニアに対しほぼ全例で腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を行っております。原則、新生児から中学生までを対象としていますが、若年成人（とくに女性）も適応となりますのでご相談ください。全身麻酔で1時間以内の手術であり、喘息など既往歴がない場合は、手術当日の退院で治療を行っております。



外鼠径ヘルニア（左：男児 右：女児）



男児の内鼠径輪(左：正常 右：外鼠径ヘルニア)

①



②



内鼠径輪の直上で腹壁から穿刺（①）し、糸を把持した針で半周腹膜外を運針します（②）。一旦糸を腹腔内に置き逆の半周を運針（③）して糸を回収、結紮することで閉鎖します（④）。

この手術の利点は、余計な剥離を行わずに済むことです。ただし、外鼠径ヘルニア術後の不妊が一定数報告されており、従来行われている鼠径法では精管・精巣動静脈・卵管損傷のリスクがあると考えられます。

腹腔内から観察すること、拡大視すること、精巣動静脈や精管にほとんど操作を加えないことから、リスクの低減を図っています。



③



④

この他にも虫垂炎や胆道拡張症など積極的に低侵襲手術を行っておりますので、合わせて御紹介のほどよろしくお願い申し上げます。（一旦小児科にて診察させていただきますので小児科へご紹介下さい。）